

趣向を凝らしたバター餅が一堂に

第4回「BM-1グランプリ」

森吉山麓村興し会（池田文明会長）主催の第4回「BM-1グランプリ」が、4月28日にクウインス森吉で開催され、22の個性あふれるバター餅が出品されました。

BM-1グランプリは、販売用のバター餅を製造していい個人と団体を対象としたもので、従来の伝統的なバター餅の製法を基本とするクラシカル部門に7品、抹茶やレーズンなどの素材を加えたアレンジ部門に15品の応募がありました。

はじめに、主催者の池田会長が「この大会からバター餅の話題が市外・県外へと広がっていくことを願



▲クラシカル部門で、一品一品の味を確かめる一般審査員

い、村興し会としても頑張っていきたい」とあいさつを述べました。

続いて、地元の前田保育園の園児たちと日本バター餅協会のイメージキャラクター「バターもち」が、元気に「バター餅体操」を披露。園児たちが愛らしく踊る姿に会場は大いに盛り上がりました。

審査は、一般審査員50人による一次審査と特別審査員13人による最終審査で行われました。審査員は、一つずつ風味や食感を確かめながら試食するとともに、趣向を凝らした数々のバター餅の出来栄を楽しんでいました。

審査の合間には、NHKで放送されたバター餅による地域興しの映像がスクリーンで紹介されました。また、バターもち愛女子会（あいこうかい）による消しゴムはんこを使ったエコバッグ作り教室、前田保育園の園児たちによる「バターもちぬりえ」が展示され、会場を彩りました。

最後に部門ごとに各賞が発表され、クラシカル部門では渡部の子さん（采内沢）、アレンジ部門では中嶋慶子さん（鷹巣）が、初めてのグランプリに輝きました。

阿仁地区を対象に脊椎検診

秋田大学と北秋田市との共同事業

秋田大学医学部整形外科学講座と市の共同による脊椎検診が、5月11日から16日まで、阿仁ふるさと文化センターなど阿仁地区の6会場で行われました。

脊椎検診は、同整形外科学講座が阿仁地区を対象に平成21年度から毎年実施しているもので、23年度からは検診システムづくりと市民の健康増進のため、市との共同事業として取り組んでいます。整形外科学分野の検診は、県内では唯一、全国的にも極めてまれなモデルケースとなっています。

特に、脊椎疾患の一つの湾曲異常



▲前屈や反り返った状態の背骨をコンピュータで計測

は、頑固な腰背部痛、バランス障害による転倒や骨折などの原因となるため、早期発見、早期治療が望まれています。

今回は、握力や背筋力、脚力、背中のゆがみを調べる従来の検査に加え、運動機能が落ちて介護が必要になるリスクが高まる「ロコモティブシンドローム」を判定するため、台座に座った状態からの立ち上がりや歩幅の計測も行われました。

検査後は個別指導が行われ、参加者は、検査結果の説明や日ごろ気をつけることなどのアドバイスに、熱心に耳を傾けていました。



▲検査終了後、医師からアドバイスを受ける参加者

市教育大綱の策定を協議

第1回総合教育会議

北秋田市の平成27年度第1回総合教育会議が、5月14日に市役所で開かれました。

総合教育会議は、市長と教育委員会（教育長、教育委員）で構成され、教育行政の大綱の策定や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命や身体保護等緊急の場合に講ずべき措置について協議、調整を行う場です。平成27年4月1日の改正地方教育行政法の施行を受け、新たに設置されました。

はじめに津谷市長が「4月から新しい教育委員会制度が始まり、首長が教育長を直接任命することになっ



▲第1回総合教育会議であいさつを述べる津谷市長

たほか、総合教育会議を主宰し、教育目標や施策の基本方針を定めることになった。今後は、この会議で教育行政の大綱を策定し、推進していくことになる。様々な課題についても、解決に向けて迅速に対応していきたい」とあいさつ。続いて、三澤教育長が「この会議で、北秋田市における学校教育、社会教育、スポーツ全般にわたり、市長と教育長、教育委員がその教育理念や方針、施策、事業について、お互い自由かつ達意意見交換を行うことが望まれる」と述べました。

このあと議事に入り、総合教育会議の運営要綱の制定と、北秋田市教育大綱の策定について協議しました。運営要綱は、総合教育会議の運営に關し必要な事項を定めたもので、教育大綱は「学校教育編」、「生涯学習編」、「スポーツ振興編」の3編で構成され、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたものです。それぞれの案件について、積極的な意見が交わされ、協議の結果、2件とも原案どおり承認されました。

いろいろな乗り物が勢ぞろい

秋田内陸線「のりものまつり」

秋田内陸線「のりものまつり」が、5月16日と17日の2日間の日程で行われ、会場の阿仁合駅周辺は大勢の家族連れでにぎわいました。

会場の市役所阿仁庁舎前には、パトカーや白バイ、救急車、はしご車、電気自動車、ゴンドラ、スノーモービル、除雪車など約20種類の乗り物が勢ぞろい。子どもたちが、お目当ての乗り物を回っては、座席で乗り心地を確かめたり、運転手気分になり浸ったり、消防服などの制服を着せ

てもらいながら写真を撮ったりして楽しんでいました。また、地震体験車や高所作業車の体験試乗には列が



▲内陸線の車両を模したミニ列車に乗って喜ぶ家族連れ

できる盛況となり、林業作業車による実演では、巧みに操作して丸太をつかんで切断したり、積み上げたりする技術も披露されました。

河川公園では、ミニSLや内陸線をモデルにしたミニ列車、ほろ馬車などの試乗が行われ、人気を集めました。さらに、毎年好評の鉄道基地体験では、軌道バイクの乗車、運転席に座っての運転手体験などを楽しむ光景が広がりました。

阿仁合駅前には飲食・物販コーナーとして出店が並んだほか、県内各地の「ご当地キャラ」が集まりイベントに花を添えました。



▲鉄道基地体験で軌道バイクを楽しむ子ども